

不審者を想定した避難訓練 ~ 6月11日(金)に実施 ~



2年生プレイルーム付近で発見された不 審者に対して、連絡を受けた職員がさすまた 等を持って速やかに対応しました。警察署の 方には、その場で不審者の対処の仕方につい て、職員に指導をいただきました。

児童はその間に校庭に避難し、安全を確保 しました。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・安全を確保

しゃべらず、友

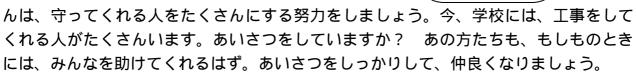
達を押さない で避難できま

したか?

【学校長の講評】

今日は、みんなに危害を加える人が学校に入ってきた ときの訓練でした。不審者が入ったクラスは大変だった と思いますが、とてもよくできました。

本当は、みんなを守ってくれる人たちがほとんどで、 危害を加えようとする人は、ほんのわずかです。みなさ



不審者は、学校だけでなく、行き帰りの道や遊んでいる公園にも現れるかもしれません。周りには、助けてくれる大人がいるはずです。それは、いつも顔を見ているおじさん、おばさんです。その方にも、普段からあいさつをしましょう。玄関先に出て、見守ってくれている方々もいます。わたしを、ぼくを守ってくれる大人を増やすための行動 = あいさつをしっかりとするようにしてください。

本日の訓練が、学校で使われないで済むことを願っています。普段から、先生の言う ことをしっかりと聴き、指示にしたがってきちんと行動できるようにしておきましょう。

登下校の安全に課題あり!! 児童の歩行マナーについて、地域の方々からも心配の声が寄せられています。学校では、次のようなことを確認しました。学校職員が現地に出て、指導を行っています。

- 1 ふざけて、歩道から車道へ出ない。
- 2 歩道のないせまい道は、1列で歩く。
- 3 止まっている車にさわらない。
- 4 踏切、信号待ちで広がらない。

ご家庭でも見守りをお願いします!

玄関先に出てお子さんを見送っていただき、そのとき通りかかる児童にも注意を呼びかけてください。

^{続々} キラリ輝くこの子のために(7)

発達障害のある子どもの支援に学ぶ しつけのイロハ

「テストの点はどのくらいだったか」「何々がどれだけできるか」などと、 友達や兄弟姉妹との比較をすることはありませんか?

親の期待だけから子どもを評価することは、子どもの成長にプラ スにならないことが多いようです。できないことを責められると、 自信がなくなり、やる気もわいてきません。また、いつも順位や勝 ち負けばかりを気にしていると、人を思いやる心も育ちにくくなります。

🥟 🥟 ほかの子どもとのちがいを認めること 🌺 🧥

発達に偏りがあると、知的な遅れはなくても、「特定の教科だけできない」 「運動が苦手」「手先が不器用」といった課題もでてきます。がんばっている のにできない苦しさを理解せず、「しっかりやらないから、できないんだ」「も っと、がんばりなさい」といった言葉だけを投げかけていないでしょうか。

発達障害のあるなしにかかわらず、だれもがもっとできるようになりたい と願っています。しかし、思うようにいかないから、悩むのです。

他の子どもとの違いこそ、この子の個性となるところです。だれでも顔が違 うように、みんなちがってみんないいのです。

かけっこをすれば、必ず一等もあれば、ビリもいる。不得意な分野にばか り目を向けるのではなく、得意な分野 を伸ばすように心がけることです。

得意な分野が伸びてくると、やればで きるという気持ちが育ち、本人の自信に なります。このことによって、不得意な 分野をカバーすることになり、自立につ ながるのです。

目標や課題を「ちょっとがんばればで きるところ」に設定することも大切です。 いきなりすべてが成し遂げられればこん な楽なことはありませんが、高すぎる目 標では、途中であきらめてしまいます。

目標に向けて、小さな一歩一歩の積 み重ねをしていきましょう。

わたしと小鳥とすずと

わたしが両手をひろげても、 お空はちっともとべないが、 とべる小鳥はわたしのように、 地面(じべた)をはやくは走れない。

わたしがからだをゆすっても、 きれいな音はでないけど、 あの鳴るすずはわたしのように たくさんのうたは知らないよ。

すずと、小鳥と、それからわたし、 みんなちがって、みんないい。

金子みすゞ [1903-1929] の詩